



門 4  
2228

14

貝原先生著

# 京城勝覽

書林 柳枝軒

内田

## 京城勝覽序

平安城と山城別愛宕郡宇多乃邑小のり  
 神武天皇大和別橿原の都と神武立あし  
 大和河内枋津山城近江長門など小宮  
 所城はごめあふ事。三十二處遷都と四十餘  
 度及及る。桓武の帝奈良乃都と山城玉  
 長岡ふるるるとおしゆけら。今これ都の地は神  
 相意志勝境な事事成るしゆしゆ。是  
 乃京より。かこみて此所小定所とらるる勢経







と尋ひのんむ。志うぞして驚しく過るのうらむ  
 ふうるべし。そのりそ其下の名は均し極む。  
 雍州府志。山城國志。名所追考。其の少を  
 詳ふあるせば書わすこと何まのい。うらぐ急んん  
 一。今此書ふは只其の人多きあり。乃名目は  
 ありとのを。なうそをこが日乃本を風氣やう  
 つふ。去地厚く人物うかり。財穀ゆさうあり  
 て。とこり死事人の國よをぶき。これど。うが國  
 乃人あかくる。あまは紙わさす。とむり  
 乃人豊秋津例と号を。一。事。をらう。乃  
 人の君子國不死國とかげを。一。夏ひるも  
 云らう事。紙志。と。又此都。ふとめ。人いけ  
 地乃徳州よをらね。平を。安らう。あり事  
 と志。と。古。終。ふ。藝。典。不。和。卒。と。つ。か。が。て。し  
 一。き。あ。る。あ。紙。考。び。つ。ら。あ。を。い。や。一。ひ。ん  
 情のあひひたを。あや。況。色。野。う。り。あ。り。つ。る  
 人を信よ。英。あ。ま。ま。も。う。が。あ。わ。う。と。と。そ  
 久しく。と。ま。う。と。と。い。う。ぐ。う。う。ち。つ。を。ふ。平



安乃名このまことの此このまこと初このまことれ風ふう去さ乃の實じつよの多た人ひとを事ことを  
志しらんんや。所ところを志し書しよと作つくるる所ところを志しばばこの  
住すま境かた中なかへへ平へい安あんのの名なをを志しししおお倉くらのの事ことをを志しる  
ししてておおりりととせせり

寶永三年立春日

貝原篤信記

京城勝覽目錄

○洛中洛外名所毎日見物之案内

○序乃次よ京町小路の由来と志々を

○洛中の名所古跡を志々を 七丁目より十七丁目まで

初一日 十九日 三條小橋大橋大橋を志々を この町と志々を

建仁寺六波羅清水へ出を志々を 粟田口まで

及及び志々を 今日の 見物所 多しと志々を 志々を

○但たゞしし日ひ乃のりりとと志しるる所ところを志しるる所ところを志しるる



二日

廿六紙 南禅寺より小根園寺より一田舎へ  
遊まざりて瓜あたるを○右のみらねりてとて  
いまやど乃ほそり。今日もいふ所多し

三日

廿一紙 京より一足にゆき。竹田毎とうりて  
京より瓜あたるを○但し日ゆれりるの  
めりてとていふ所。そのあつた乃みらとて  
いふ所多し  
一。船子く出せり

四日

廿六紙 上乃醍醐にゆく瓜あたるを  
○此日の乃けりてとてゆき。ゆき余りあるを  
上下の醍醐へいふ所一。船子く出せり

又日

四十紙 宇治より一足にゆき。○は日ゆりるの  
とていふ所多し。船子く出せり

六日

四十紙 大原野小塩にゆくみら瓜あたるを  
○今日乃乃けりてとてゆき。ゆき余りあるを  
一。船子く出せり。桂川より一。あつた

七日

四十紙 岩我小ゆり瓜あたるを○丸みらあつた  
八紙







十三日

下ノ  
七紙

鞍馬にゆく乃辰志る事

○比日の乃辰志る事  
て程とをー

十四日

下ノ  
七紙

小原よりゆく乃辰志る事  
○さうそ乃辰志る事

ゆきゆり七里乃余乃とらわく小坂ありて  
見あもわきこゑ乃事さし  
を夜ふ入てわく

十五日

下ノ  
七紙

江別東坂本にゆく乃辰志る事

○比日の乃辰志る事  
乃宮八重子の家へおあり乃辰志る事  
羽がのぐわけより出る事

十六日

下ノ  
七紙

石ふゆく乃辰志る事

○比みらの乃辰志る事  
しきふふ坂とくもわく

十七日

下ノ  
七紙

たぐとらわく乃辰志る事



○は日乃みらぬりてとてはるまじらつてありあり。  
ふ坂もなくあつてはるまじらつてありあり。  
あふらんるべー

拾遺下ノ四  
十四紙右ふそくしつるあつてあること

氷室 大悲山 岩屋 田原 松ヶ崎

播磨必為上郡之名所舊跡 此の乃とらとあること

目録凡例終

京城勝覽

大正四年五月廿五日  
内田銀藏

京都乃町南小と縦と一。東西と横とを縦町  
あまがふゆくとわがること。南はゆくとさがる  
こと。横町なれば、何の町と東へ入。西へ入るとも、と  
ては、何とせよ。町とわかれ、中をわかれあつて  
やどし。多し人を二条宮町より小の方第一  
町目と宮町通二条より町とつて。その小町と宮  
町を夷川よる町とつて。あつては、宮町を二条よ



二町より三町とす。宝町を二条の辻より下の  
町と。宝町を二条より三町とす。又二条を乃宝町  
の西町と。二条通宝町を入町とす。東入も是  
に方ぞし人志る也。

南ふたてとむらの町の名東より西ふらり

○河原町 是土堤の外よありと洛外なり。さき

とも町をほぐせり。○寺町 系極をといふ。東ぐら

を大り寺なり。おふあがめ丹と中川といふ。

○清浄町 ○教屋町 白土を ○富小路 ○柳 場 万里

○塙町 ○る倉 ○る之町 ○東洞院 ○車屋町

突抜 ○鴛丸 ○支替町 金銀の支替とす町也

○宝町 ○夜棚突抜 二条の夜乃とふ町より上

にほさぬをり町あり ○新町 ○金産突抜

三条の谷産所より上にほさぬをり町あり

○西洞院 ○小川 ○油小路 ○堀川 川あり橋

あり ○葦原町 ○猪熊 ○黒門 ○大文 ○画



今日日ぐくし通と云○壬生 今日智恵光院屋  
少のふ○坊城 今日浄福寺通といふ○朱雀  
今日をふ女通といふも立賣屋より下はくい屋  
敷むらうといはく町家外。但し立賣より上の七か  
松屋少建所前屋。西の京。上の大お軍まで人  
家立はくあり。も京少くい。大賣屋より西の人  
家なれたあり。松原屋より上の。一貫町西寺  
町あり

東通横町乃名と。雍列府志及和尔雅よの色  
を。つらぐり。たれをくいにあつた  
○よとよ上立賣より二条色までと上京と。  
押小路より下立賣下京と。又上中下はくは。  
上立賣より下立賣色までと上京と。その色  
より上三條色までと中京と。六角色までと  
下下京下京と



洛中

○内裏 凡人常の  
御所門に入らば時ふ  
らると 御免ありてお  
遊ばるる日あり

○仙洞御所

○女院御所 此二所  
亦も御免ありてお

○親王の御殿 亦も御免ありてお

乃ちうちふあつと山築  
地の内凡人並興  
のいど

東方 ○京極通

南少不長し 近世の

寺町といひびくの

東京れいぐらうと

しあり 近代のあま

らうと東京かみ川乃

らうとまうと民があ





て所はぐく。ち町は今出川  
 よる上押小路をより南の  
 東側のみちあり。西はぐく  
 高家あり。ちの南は流々  
 小川と中川といふ  
 ○鞍馬は○上河霊社 鞍  
 る上河霊社をいふゆゑに  
 んぐぐー○相國寺 五山の  
 門の一也。ち内ひりー又山の  
 ぬげちのち流中にあり。凡そ  
 の山は天孫の相國寺建仁  
 寺東後寺 兼壽寺あり  
 兼壽寺のいひゆ中に 南禅寺あり  
 有りと今出川通 心裏  
 の山あり。○東北院の  
 一条尾の南ち町のひび  
 にあり○今出川通 心裏  
 の山あり。東は尾をまき  
 是より東にゆく大原ひ  
 えのふに別坂ありて  
 小玉ふもゆく





○中津靈 上津靈の由旅  
 ありりん不なり ○言津神  
 口黒谷吉田の方にけい  
 町の南に小清草神社あり  
 ○革堂 古河より北に  
 三十二の火礼の二あり  
 ○下津靈の社古河より  
 ○折敷石 古河より北に大寺  
 あり。米田紅の大本をいす  
 東角の町は六角屋といふ。



又俗に折敷石をいふもいひ  
 古の川をいり河原河原東  
 古河より北に ○和泉式  
 部墓 折敷石のみあり  
 徳公院のうらふあり  
 ○祇園乃津 祇園 河原  
 色古河より北に  
 ○又桑橋色 又桑色  
 古河より北に  
 古河より北に





橋をい六条坊あり

○浄教堂 一遍上人の教

堂ありと傍と書あり

扇紙はるる。洛中扇の才

一と

○下中町浄玄宗又時宗

かどのおまきあり

と東方

中 洛教口 洛山の出口

ありよか後(ゆ)なるあり

○妙覚寺 妙観寺 妙蓮寺

本流もいよと日箇さの上系

て日蓮宗の丈あり

○中立賣 禁裏のあり

所門を西へ通る町あり

け西堀川ふゆとる橋紙屋

は橋とあり今一東堀川あり

橋紙より橋とありのやま

ありとあり。凡系中にて

中立賣家町新在家あり



鬼子母神堂

妙顯寺

祖師堂

三王門





左寄藤乃町あり

○柳の水 西洞院を三葉の

南あり。法泉ありは町ふ

本能寺あり

○六角堂 頂法寺といふ

六角をふわり。けさの住持

代々花と傳へ。七月七日の

鈴池坊ふ立花敷瓶あり

んぐり

○佛光寺 高倉色中

其宗別流の古馬かり

○因幡茶師 又桑松

馬丸ふわり○又桑天祥

松原色西洞院の角あり

○新玉澤岩 松原色室

町のいかに紀別和

乃備玉澤岩のいかに

うせきまし社あり

○東本願寺 東門跡

と移る六葉うらを丸ふ





わると東向あり

以上中

西 安居院あいきんいん

大徳寺だいてくじの方かたにあり

なるも今いま安居院あいきんいんと

あり。町まちの名なあり

○~~石井~~ 菊きく少すくふ庭にわと

る所ところあり。町まちの中なかに川

わり。比ひ川の源みなもととあり

○二条ふたじょう城じょう

○神泉苑しんせんえん浄城じやうじやうの南

大文庫だいぶんこの南みなみあり

云いきさう。池いけあり。奥おく

多おほくく。中なかつ橋はし小こ新しん王わう

の杜みやまあり。ひらひら

名なあり。あり

○大だい学がく寮りやうの跡あと今いま

酒井さかい氏の宅たくわなり。神

泉苑せんえんの南みなみあり

泉苑せんえんの南みなみあり





○雀の表 妙学院の表

河原太夫のあふわり

○壬生 地蔵堂の寺あり

壬生忠孝が観とそと観

あけぬも活中なる

○本願寺 日蓮宗の大

寺あり。寺のあふわり。堀川

のあふわり

○西本願寺 西門跡と称

と。六条堀川あり

○不動堂 油小路七条乃

あふわり

○稲荷寺 西九条乃

あふわり

○朱雀院 七条

のあふわり

○西八条法皇の旧宅の跡

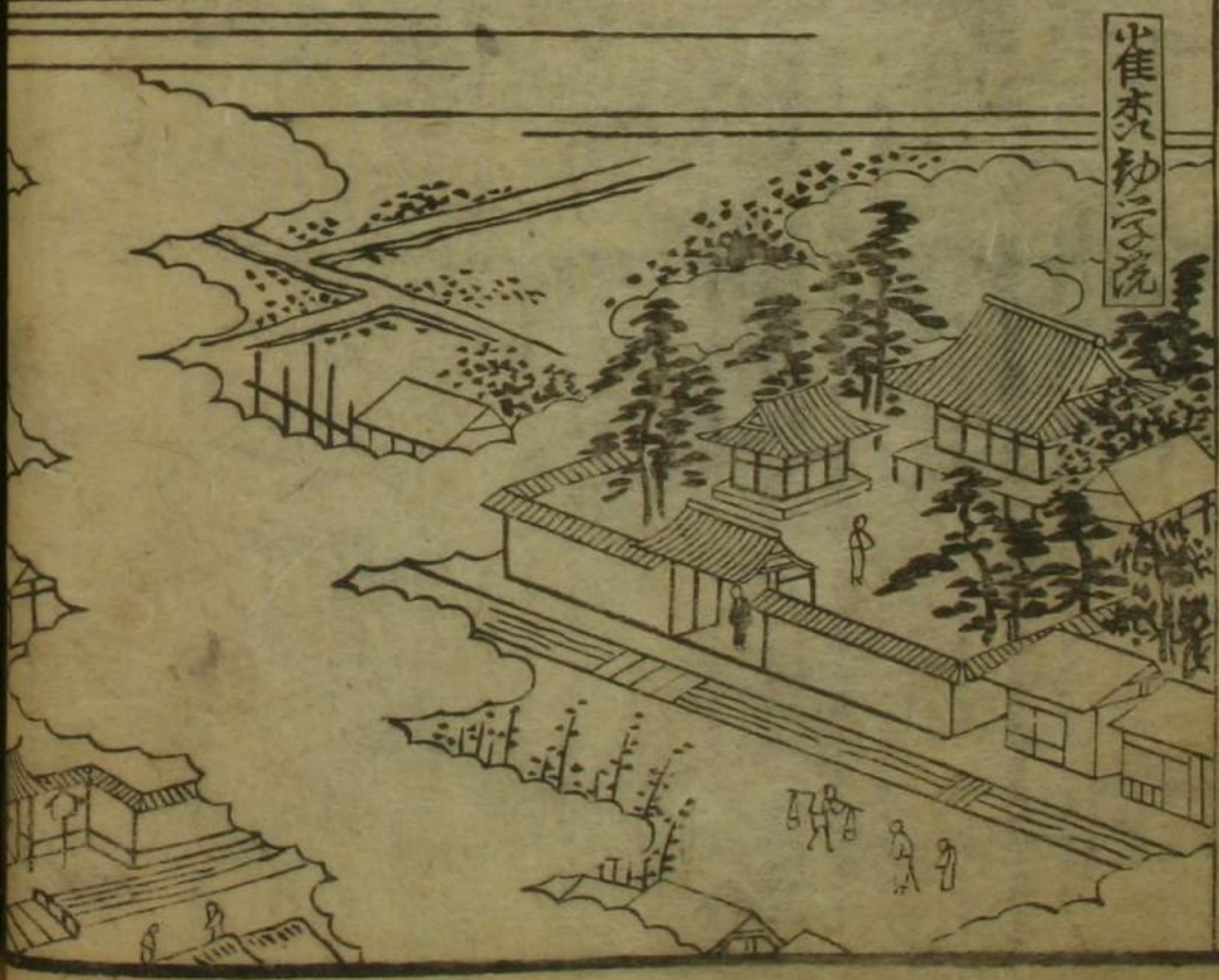
あり

○遍照院 大通

寺あり

寺あり

雀表妙学院



壬生寺



高麗堂

百体観音



とあるのあり

○六宮権現 六孫王御基  
の葬地小社ありをみ清建  
立のりく社殿あり又八幡  
春日の社あり

○東寺 下京南南の  
あり。所はぐをり中京  
よりとるありを。後  
大正時などふゆついで

かると又堂の塔あり。さ北  
九方ありありを。あり  
ある。あふ門ありのにあり。  
俗に養生門と云ふも  
ひこれ養生の初めあり  
門あり。是ふありを。寺の  
あり乃九条ありあり  
○西寺の跡 今の田あり  
て守敵塚の跡あり

己上西





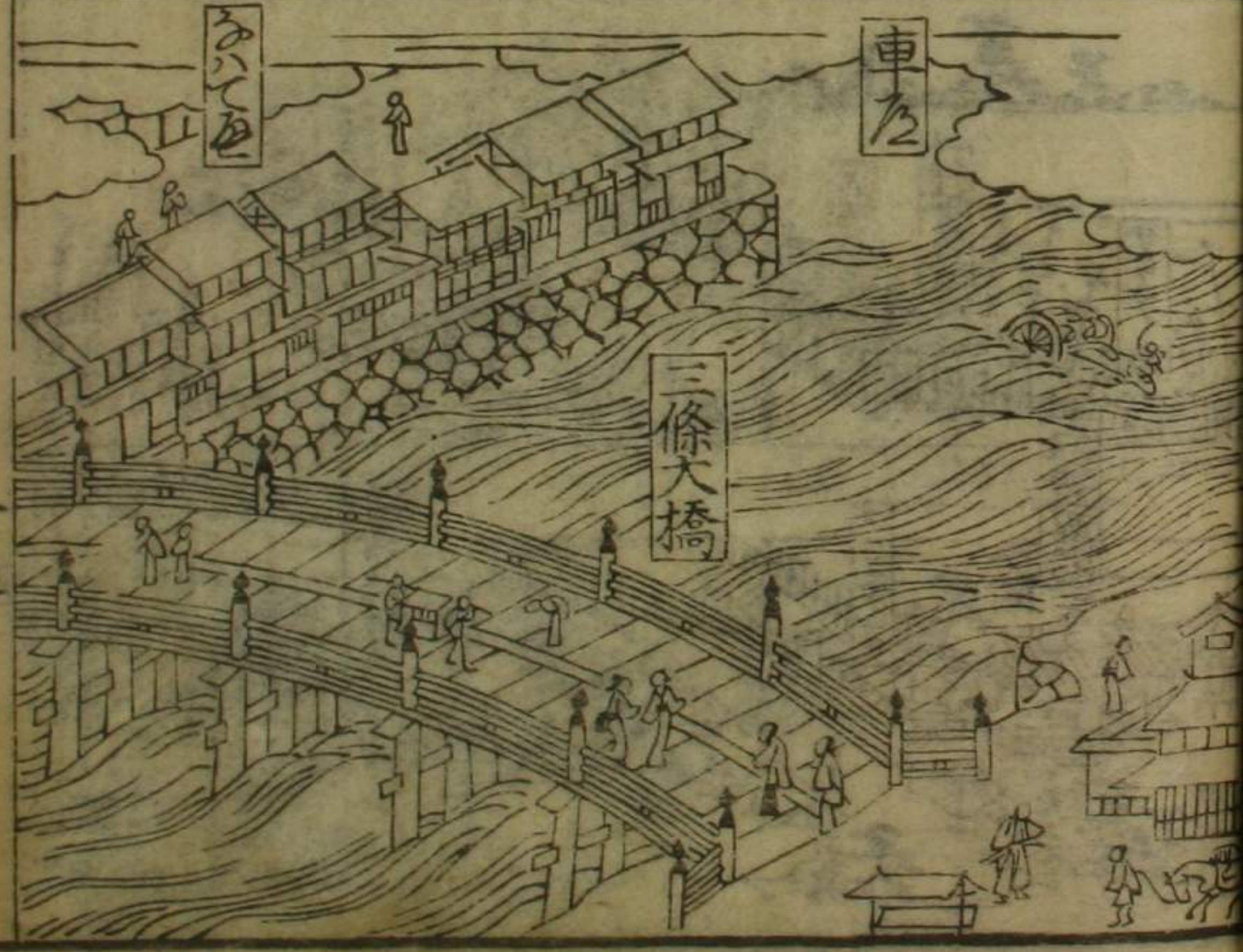
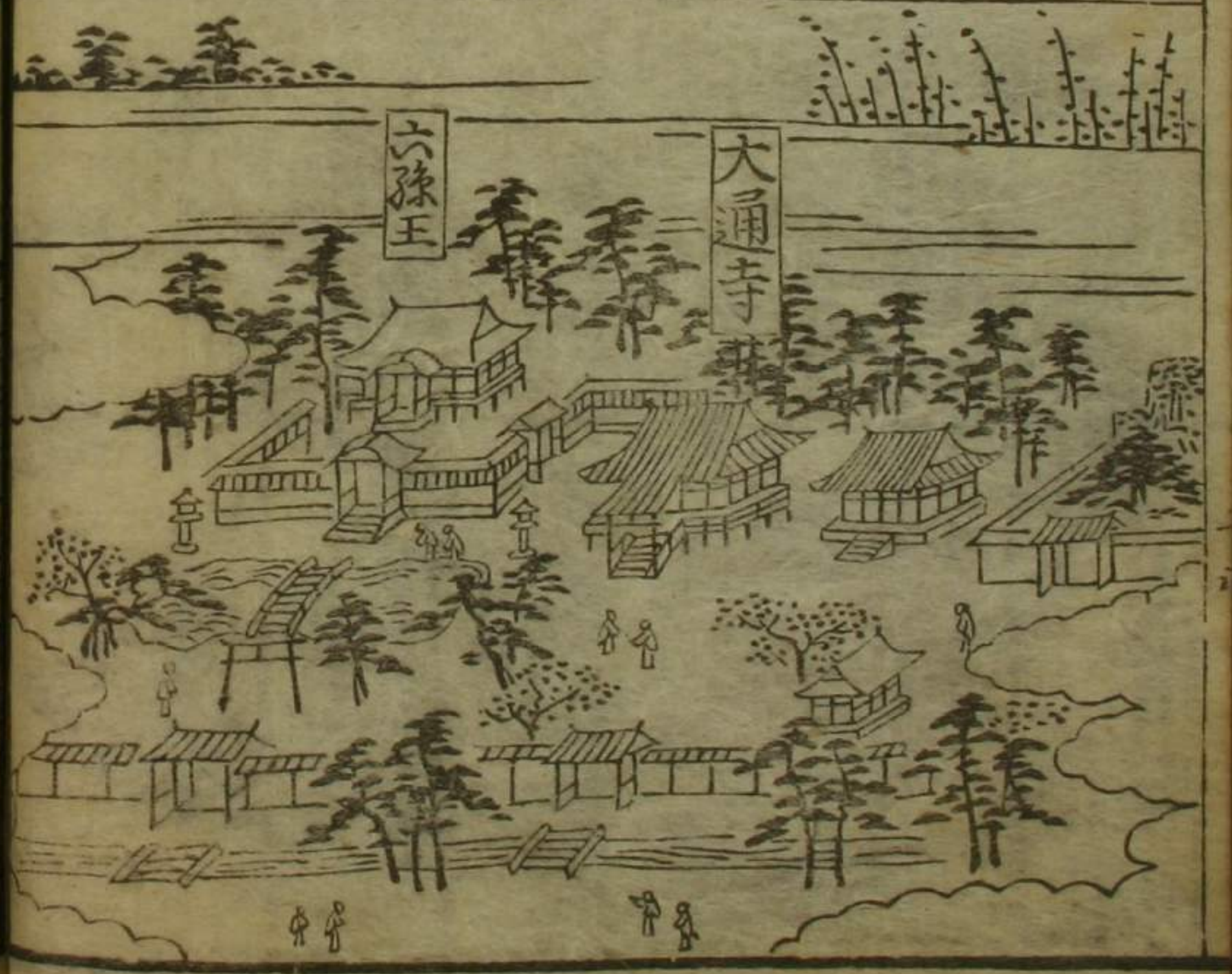
右洛中紙記とけ介子細  
 わる古後ち社多々れとも  
 いづぐり〜たれが略と  
 ○京初の周大去境秀香  
 公流りせくる東の河系町と  
 ち何との方にもある紙を  
 川の〜にありある東ちの  
 右と九条を色にあり小と  
 大棟ちのとあかえ花のあま  
 わり。京初の内方とらざりり

右洛中畢

洛外

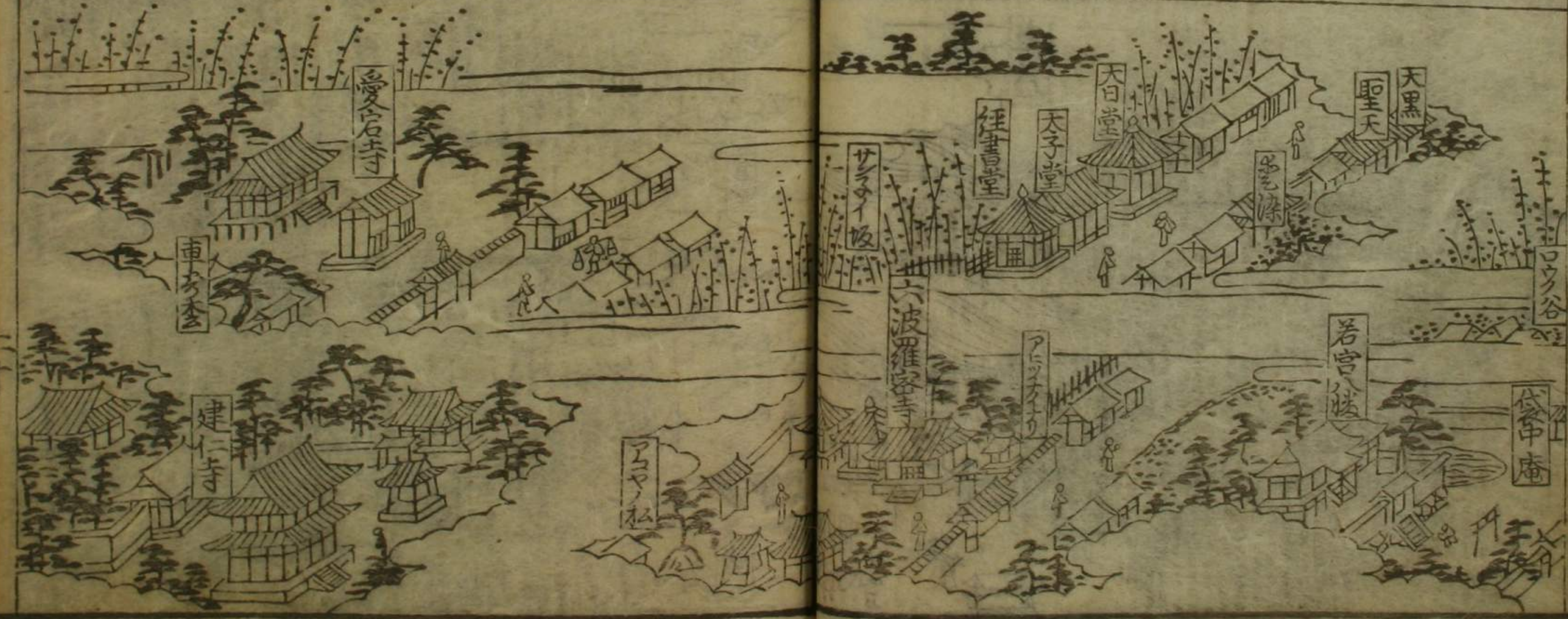
▲初一日 東方

○三條小橋 高瀬川  
 けせり。此り〜るをみよま  
 伏つらふゆ〜びをさうり大橋  
 の〜のまが〜る〜る屋後し  
 け南色に高生塚わり  
 ちまの紙瑞白系ちとの〜秀次  
 公并初子及び侍妾教十





人は家にながむ○三條大  
 橋如茂川ふつとせり。橋の  
 上よりひえのふはらのき  
 炭大糸鞍るさぶのたど  
 りん○かろく町 三條大  
 橋の東より三條の方には  
 乃あり○大和橋 白川  
 こせり○建仁寺 又山  
 の一なり大もあり○愛宕  
 山あり○六波羅宮あり 本  
 にあり○六波羅宮あり 本  
 寺の中い観音たの業障。右に  
 地蔵あり○経書堂 六波  
 羅宮と坂とがしとつてよ  
 わりかろくなり○子安乃  
 塔 泰壽寺とつてあり  
 ○車宿馬路 け二あり二五  
 門のりふあり小側あり  
 ○清水二五門 傍磨塚  
 坂のありけお又成院あり





○田村堂 田村丸  
 の本像ありあり  
 ○清水観音堂  
 南ふむらるる。あまの  
 作あり。観音と  
 りん○地を指現  
 観音堂のうらら  
 きふらる。横わりけ  
 社の観音堂より  
 とらるりありあり。

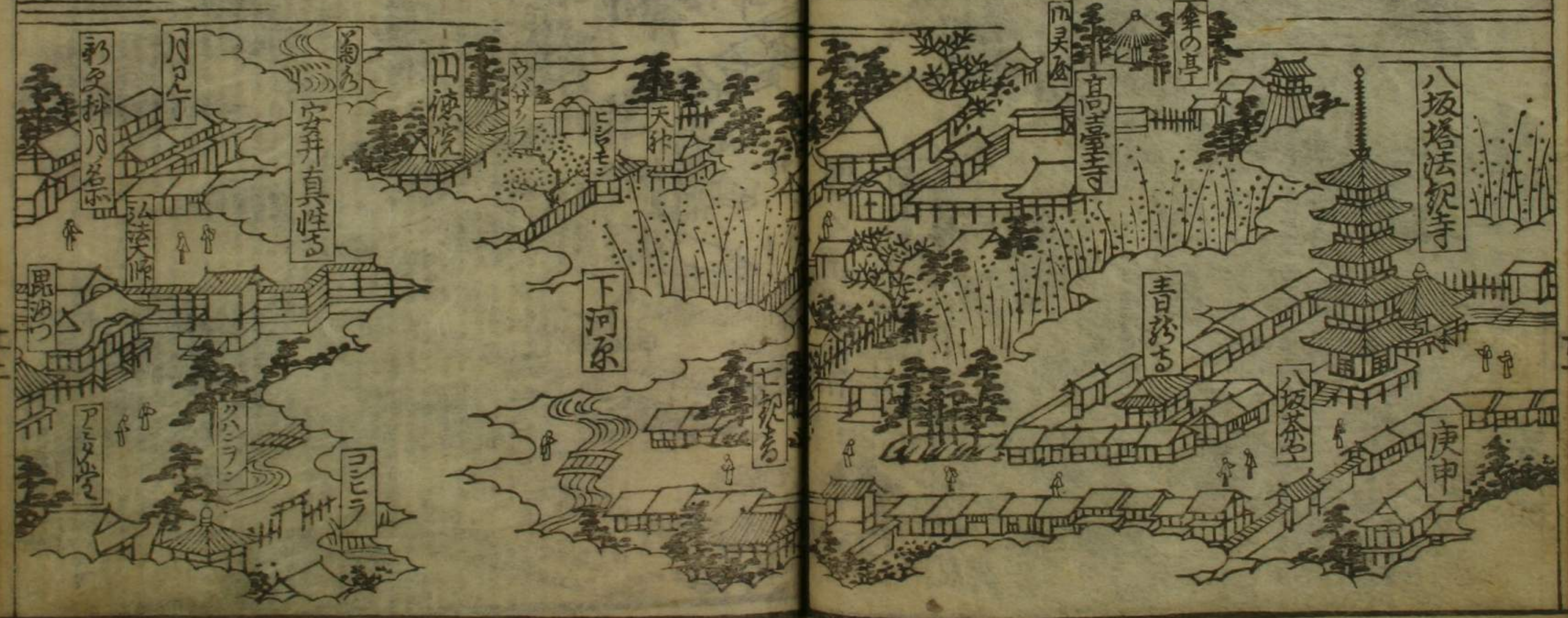


社のあに信目々  
 石とひてた末石  
 わり。同書の林あり。不  
 思あり。まき。目紙  
 あり。地一方より一  
 にゆくふ。多し。らら  
 づる。○奥の院 西  
 山 大原 地 中 強 山。  
 其外 洛中 洛外 悉  
 見え。好 系 あり





○青ねの清水寺の上のふ  
 かり○青ねの遊○三々坂  
 法あり下りて祇園の方  
 けり乃てあり○下河原  
 小川あり其より出○霊山  
 時宗あり坂と東よる。た  
 ち又傍坊多し。好京の坊  
 わつて能人多し。傍坊を  
 精を料理とてよる。よふ  
 堂あり。そよに天照を神  
 宮あり。げふ坂より乃尾  
 中し号を霊物とてよる。比  
 とを正法とてよる。○八坂乃  
 塔 法親寺といふ。又寺の  
 塔なり。げふに葉屋多し  
 ○高倉寺 大さあり豊  
 長秀吉公の山の政不立あり  
 すかりり秀吉公の山の政不  
 の本像は霊廟あり。暁葉  
 ありまゝの花秋の影多し。





びんぐふ。下もふもむ  
 多し。下もふもむ  
 いづまへ祇園の方に  
 ゆく乃あり

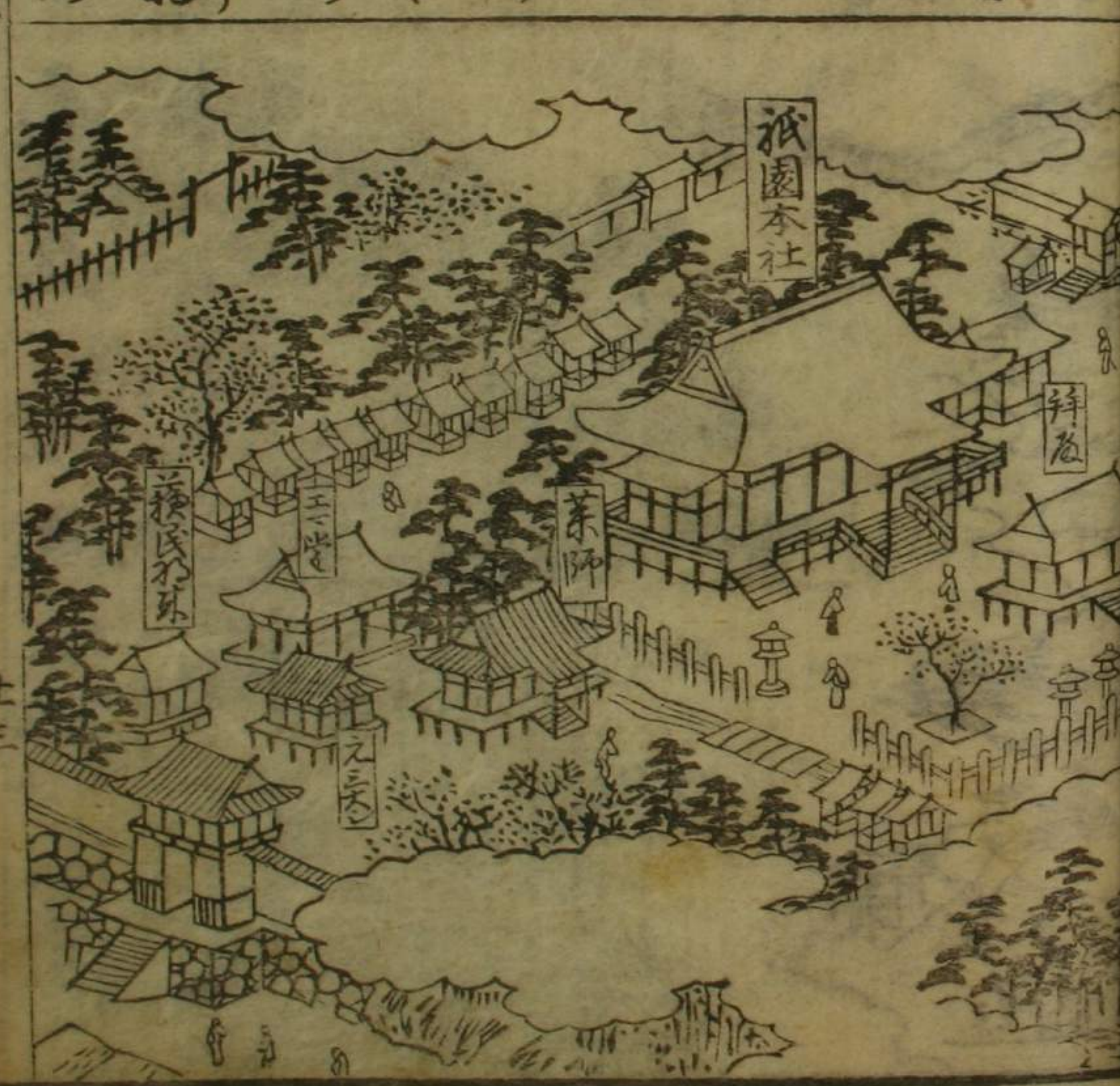
○安井真性寺

げんふ親勝あり。と。  
 建仁寺のうしろあり。  
 後五ふ吹はと標  
 りありて控人多し。  
 奥に金毘羅あり。糸

新法つふ小多し

○祇園感神院と云

石の多居乃家ハ照  
 高院道日光親王乃  
 寺等かると。神殿と  
 紫宸殿と撰写せり  
 といふ。清水といはく  
 控人多し。あり。標  
 あり。の方に藤氏乃  
 東の社あり。小の方の













静寂なり。中堂の南の方  
 きふふ大鏡あり。中堂の東の  
 石階は高く上りて。上に一心  
 院あり。奥に院と云。○庚申  
 堂 菩提院と云。知恩  
 院の介つ瓜出。川は流れて  
 くる。右ふゆく。びふまをむ  
 わり。堂ふ三猿のくもるあり  
 ○粟田の 三条屋より大  
 河のふれぬあり。○白川

橋 白川ふりてせり  
 ○青蓮院 粟田の南の方  
 あり。親王御門跡あり。御殿の  
 知人ありていんる事なり  
 ▲第二日 東方  
 南禅寺より以下粟田の  
 のふりあり  
 ○南禅寺 又ふの上。大寺  
 なる。二門あり。内ふ十六羅漢  
 あり。ふりて鐘あり。右門





見所多し。子院の内地院  
 寄藤なり。信紙求む。ゆづ  
 熱の茶の乃名し。あま茶や  
 あり。栗田にちり。びさのお  
 く谷の川。釣が滝。よき  
 死小のわら。とさ。心のおつり  
 物く。若ま。まにゆ。並乃。を  
 せし。若ま。まにゆ。並乃。を

○永観堂 禅林と云ふ

浄土ふふ。石の多く。集る。不  
 慮。察。有。復。乃。有。○若ま。ま  
 山伏の先達也。然。世。権。現。の  
 社。有。○兜。雲。寺。 近年。南  
 禅。あり。再。興。東。福。門。院。の  
 浄。助。成。小。し。れ。り。禅。也。花  
 わり。佳。境。なり。○悲。田。院  
 是。い。南。禅。寺。の。あ。よ。有。ふ。下  
 小。い。わ。ら。に。貧。人。の。居。り。里。之  
 多。死。家。多。し。○黒。谷。紫









といふ。上の名ふ山をいふ。嶽  
 といふ。多分眼よりいふ。又の  
 東近江の山あり。○名ふ山  
 けり。傍坊あり。中絶せ  
 と。延寶八年。初良院の山  
 無和者。再興せり。佛教甚  
 と。考藤かり。ふふちり  
 清泉あり。○銀園寺。将  
 軍東山殿。足利義政の宅  
 の所なり。畔藤あり。庭有。

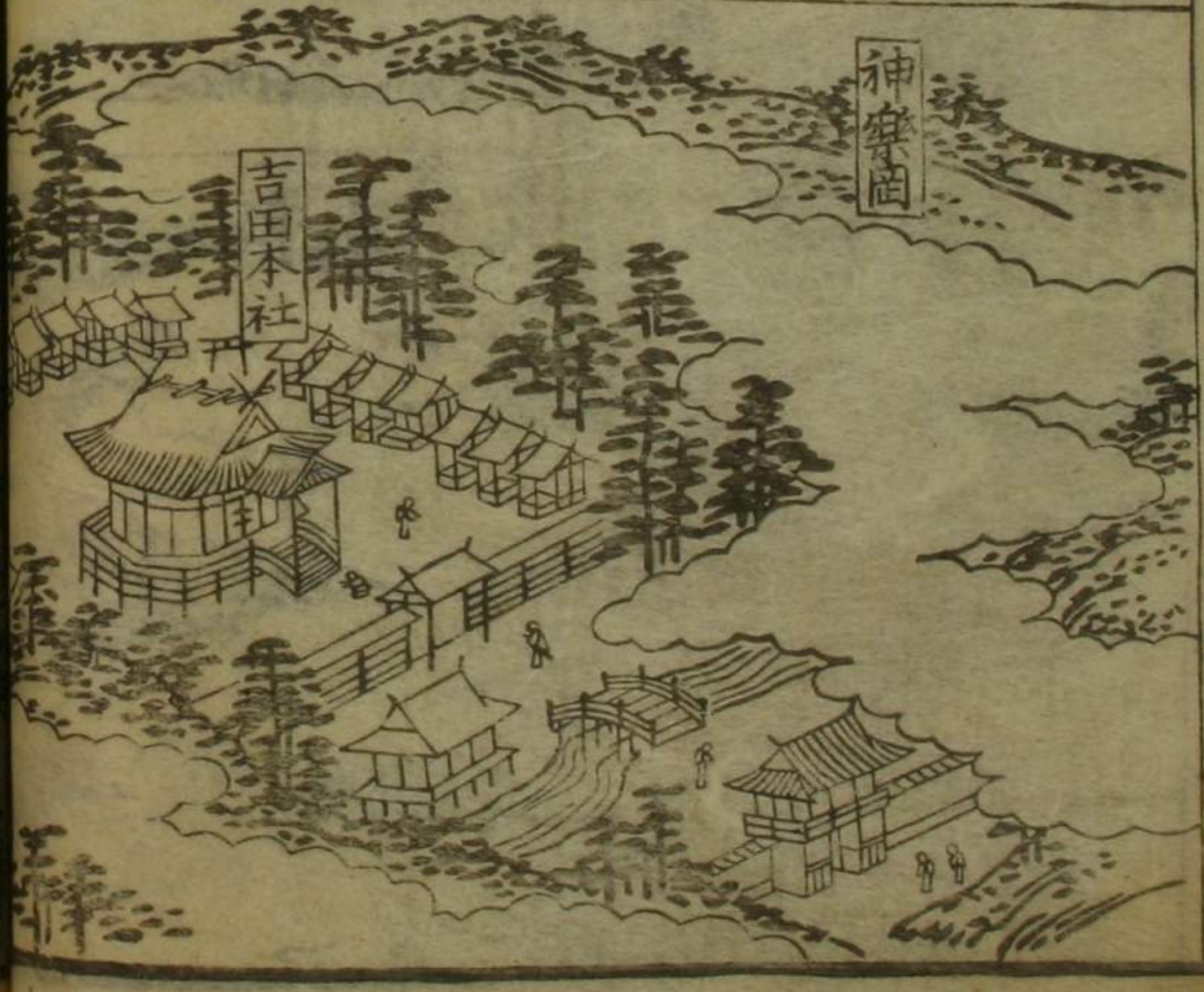
泉あり。義政の墓あり。  
 銀園あり。園と二階あり。東  
 求堂とて。人立ち。茶  
 室あり。是茶湯。庭あり。と  
 りあり。傍坊あり。とんぼ  
 此と乃ふ。毎々七月十六日  
 酒の神祭。大の字。大坂大  
 にとりと。○吉田。南ふ  
 海場あり。日本園中乃  
 猪神と。いふ。いふ。いふ。





日本最上日守日文と書  
 る額。宇治天皇の宸鑑と  
 り。其下に左え宮とつけら  
 後去所門院の宸筆。又日本  
 國中三千餘所天神地祇八  
 百萬神と云る額。清水岩  
 屋の先組の等ありと云後  
 には神屋あり。兼ふる居る  
 伊勢川外宮。本社のおく  
 けり。たまたの四所。小日本

圓六十八洲の神社の數とある  
 なり。とて三千一尺三十二座  
 わる。あまふりおふりさふ  
 とく人のけむ。小池わると。新  
 の池と云ふ。吉田の兼好が猿  
 沢の池と云う。一池ありと  
 り。そのゆゑ。春日宮の作  
 の法あり。二十二社の一あり。是  
 吉田の本社なり。○百萬  
 遍 吉田のあまの。あまの





とつ大あまあり。浄土宗に  
 のおちの二あり。じくしん洛  
 中ち何よありし。後よい  
 西にうろそり。前ふ葉なる  
 ○聖護院の表 百万庵乃  
 ありわらる。表の内ふ能建控  
 現の社あり。夏い系より納  
 涼のふあふ社人多し。けふ  
 に聖護院親王の浄宅あり。  
 天台ふはの長あり。じくしん

の洛中に浄宅ありし。後よ  
 夏ふろろをあり。あに八を攝  
 おりし。たうあり。○頂妙  
 寺 日蓮宗なり。そのと二  
 条のひがしにあり。いちもじ  
 しん洛中にあり。寛文十三  
 乙亥ふろろをり。二条にを  
 し。友あり

▲第三日 東南  
 高きを依えふり竹田





色紙くるとて京よ入る乃

と云ふこと

○又條の橋 是も橋を也

又条通あわわらばけ橋か

後川よりさきさき川も橋

の幅はあがり ○大佛

方廣寺といふ豊臣秀吉

公堂をみる本寺を釈迦堂

と九尺又尺口のしりさ七尺

入す。あのはざむりさ大

寸たす佛方り。堂乃南

小半又尺二尺又寸。東西七

尺又尺又寸。堂の棟の高さ

二十又尺。板敷九十二か。西

の石垣長さ二三尺なり

大石かり。大障ありと一丈

八尺。さき九尺二寸。わつさ九

寸。なまらの大佛の障よりと

大あり。あまの鮮人の耳垣

堂の東る小園茶院といふ

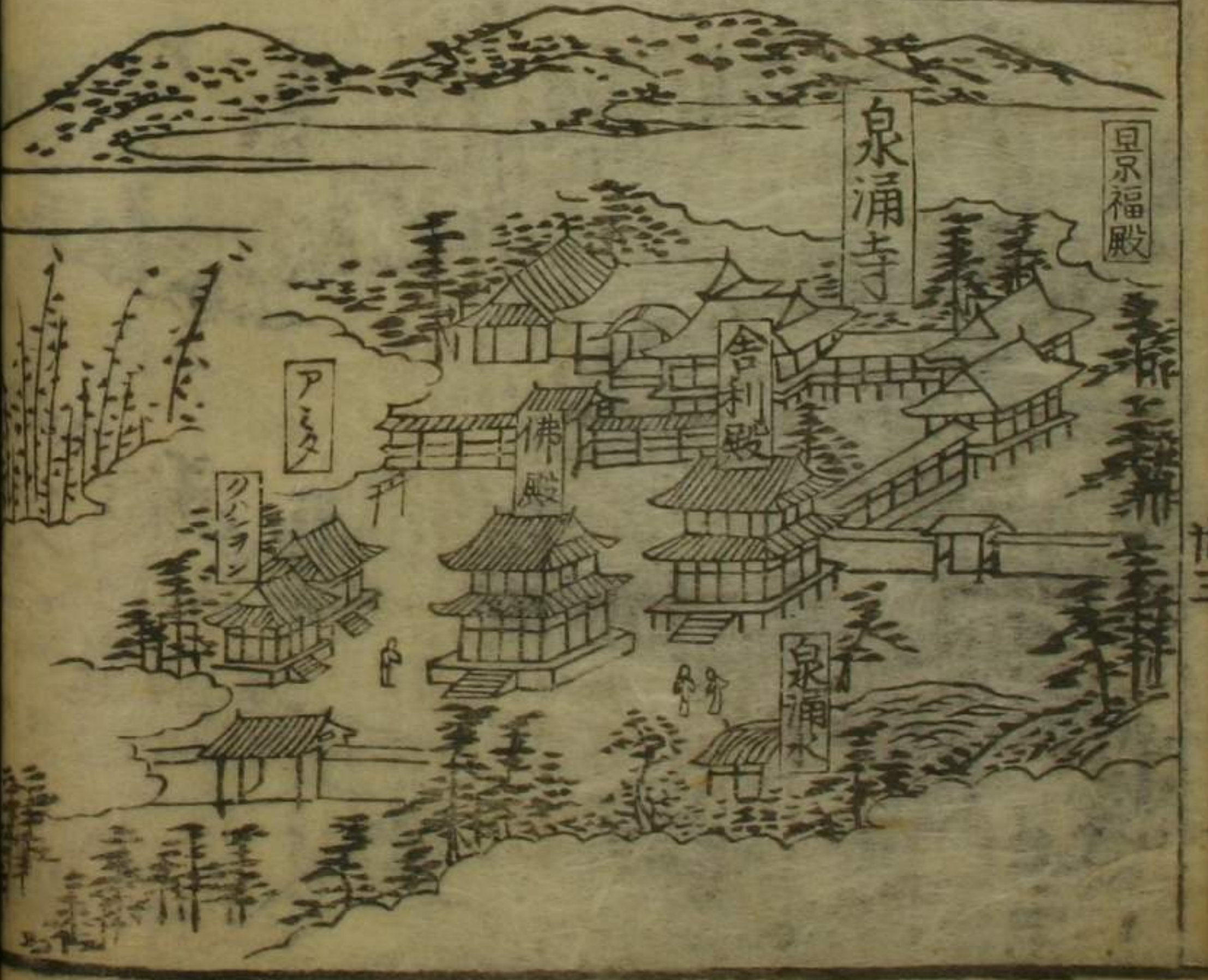








一ゆくは多々谷を放世といふ。  
 上の谷は阿波陀が寄るといふ。  
 ○新徳寺 ひきあふわり。  
 徳寺指現の社あり花あり。  
 大石あり南あわさる。泉涌寺  
 のちゆくるあり。泉涌寺  
 と徳寺の社ありふ。今徳の  
 観音あり。二十三の二あり  
 ○泉涌寺 系伏見地蔵  
 のちゆくると七八町東のふりふ  
 わり大なるなり。徳寺ありふ  
 院あり。仁徳院とるこのこ。  
 帝王所代々の所凌げは寺  
 にある○東福寺 又山の  
 内なり大なるあり。ちゆくると  
 ぶ廣し。聖一園師園尔  
 基成用をり。毎年十月十  
 六日開山忌に北典司自承  
 の涅槃像をり。其介古香  
 古墨多くめけて人よるを





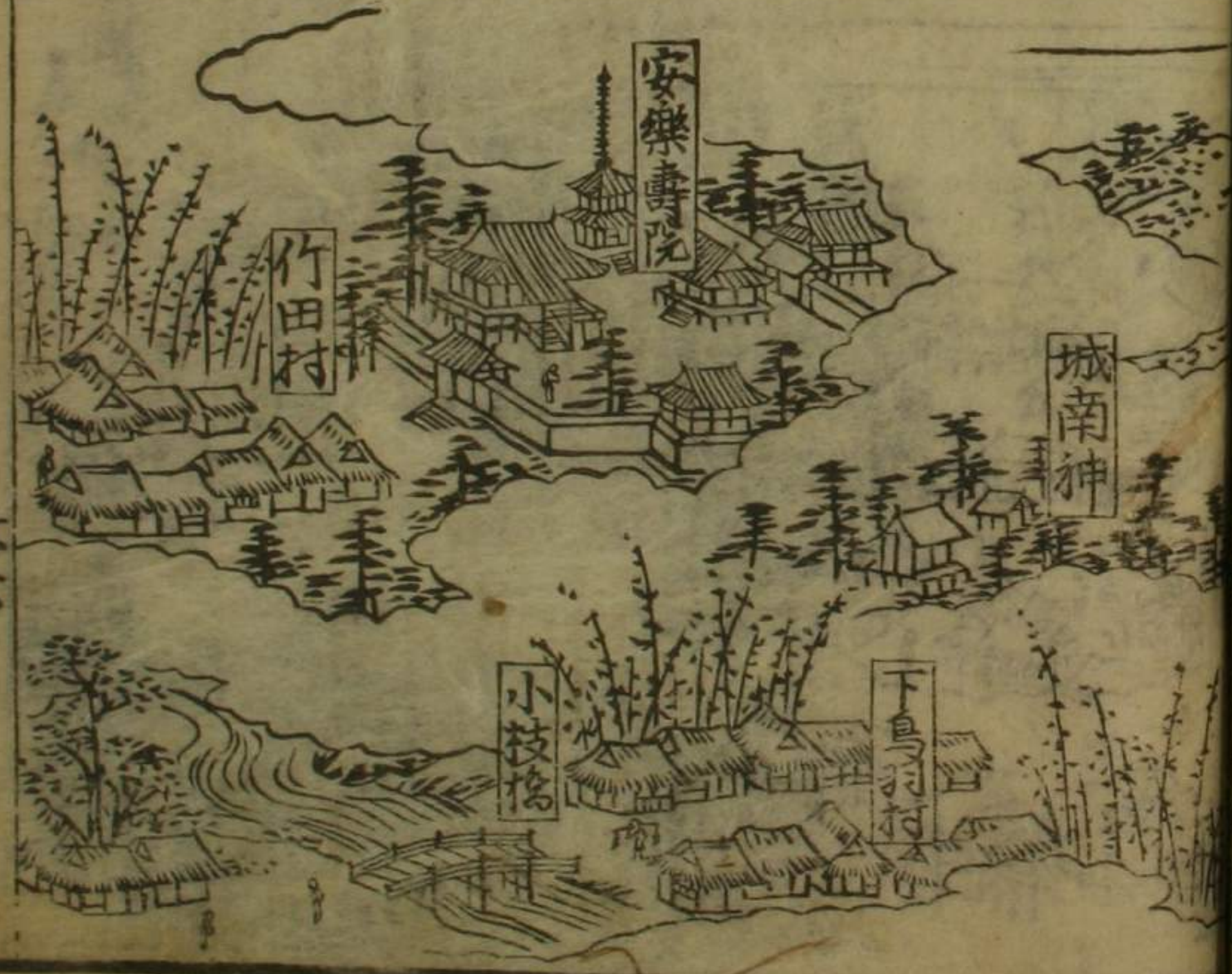
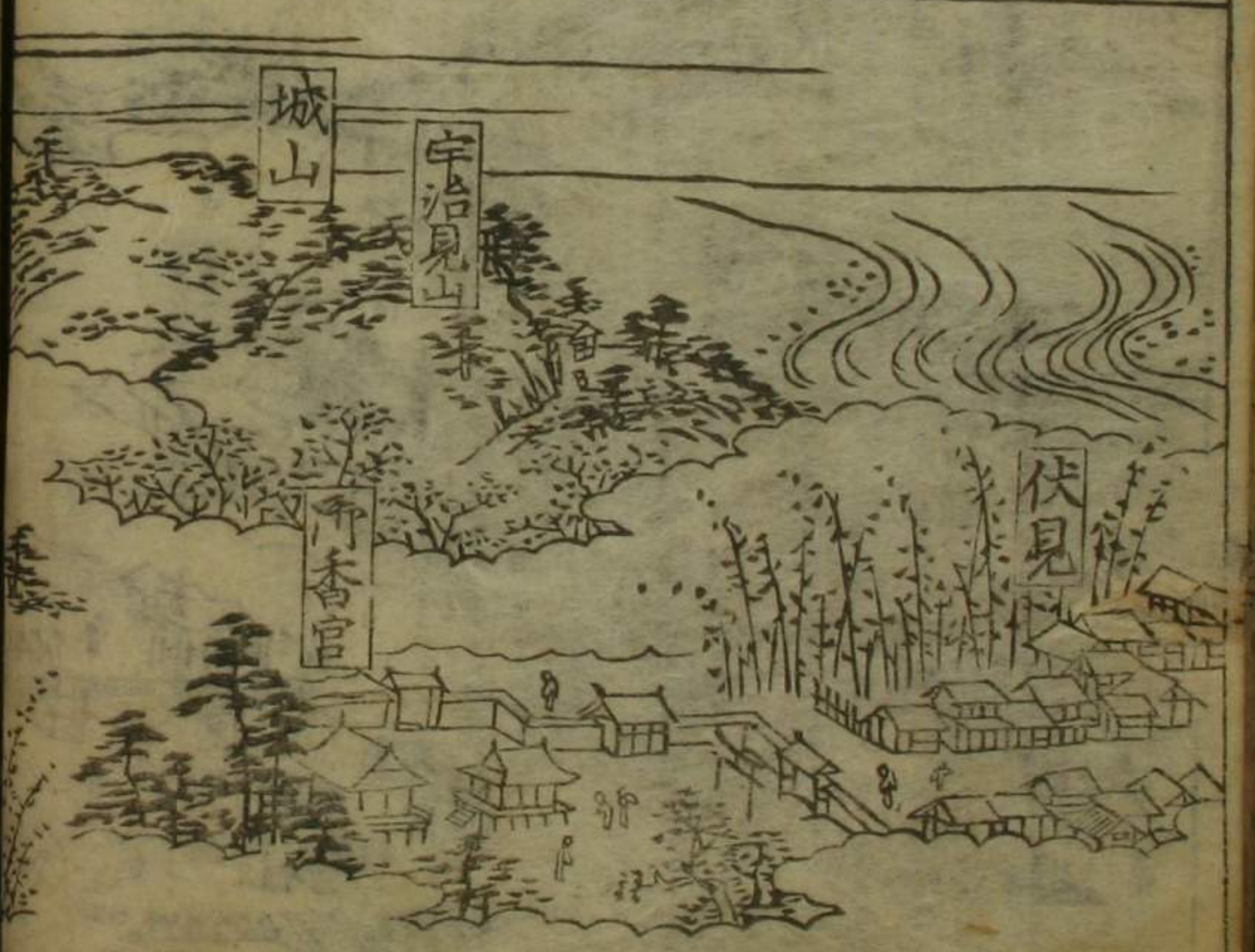
けごろ通天橋の石多きなり  
 あり。東の山より人多くけご  
 三所よりの石をみせしむる。  
 境内ふ美壽寺あり。けご  
 と洛中にあり。中は安んじ  
 つる。○福壽大社あり。神  
 殿あり。藤あり。日月印自  
 わる。○深草 津院あり。  
 又資塔ありとて大なる目  
 室のあり。石の石とて人  
 西あり。○藤表社 は社の  
 あり。藤ありとて大なる大なる  
 ○伏見 系橋より河原に  
 のりて大坂より。河原の  
 文と。神功皇后あり。けご  
 秀吉の城あり。伏見の  
 に表と桃花多くして若  
 聖の橋に對とて。聖の  
 町あり。竹田の石を  
 あり。けごるがりの石は





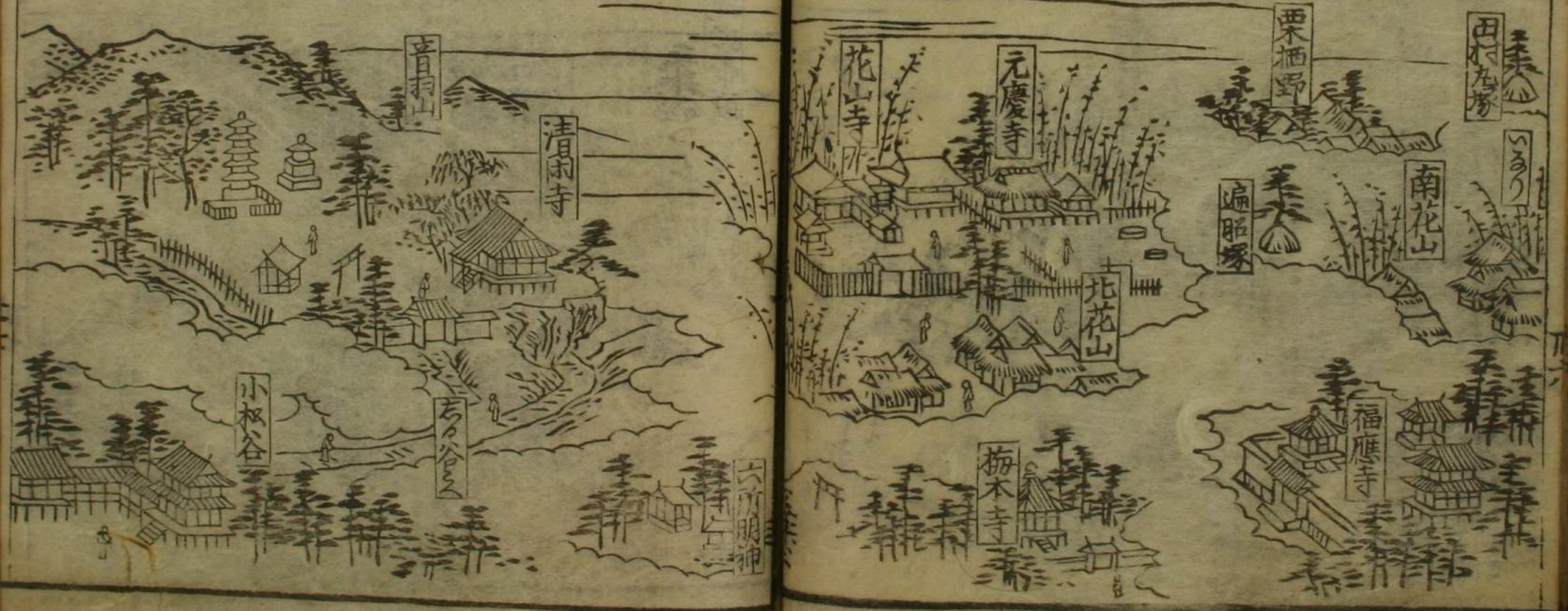
○竹田 伏見より京まで  
 に竹田をともゆ。竹田ふ  
 安樂壽院あり。志玄宗也。  
 奉堂の下に有。新法皇依  
 葬をせり。新法皇の下  
 に八條女院と葬る。城南  
 神の表あり。比色城  
 南離宮の所なり。芥川村  
 もいふあり。いふ人常  
 あり。横大路と

いふ所も竹田をいふなり。又京  
 二条よりとも川とて  
 竹田とて。竹田とて。そ  
 伏見ふ入る。安樂川もこの  
 みらふあり。多岐の枝  
 の橋をたぐり。川ふ  
 へ竹田なり。あまよとて  
 東洞院ふ入る  
 ▲身口日 南  
 上の醍醐ふゆると



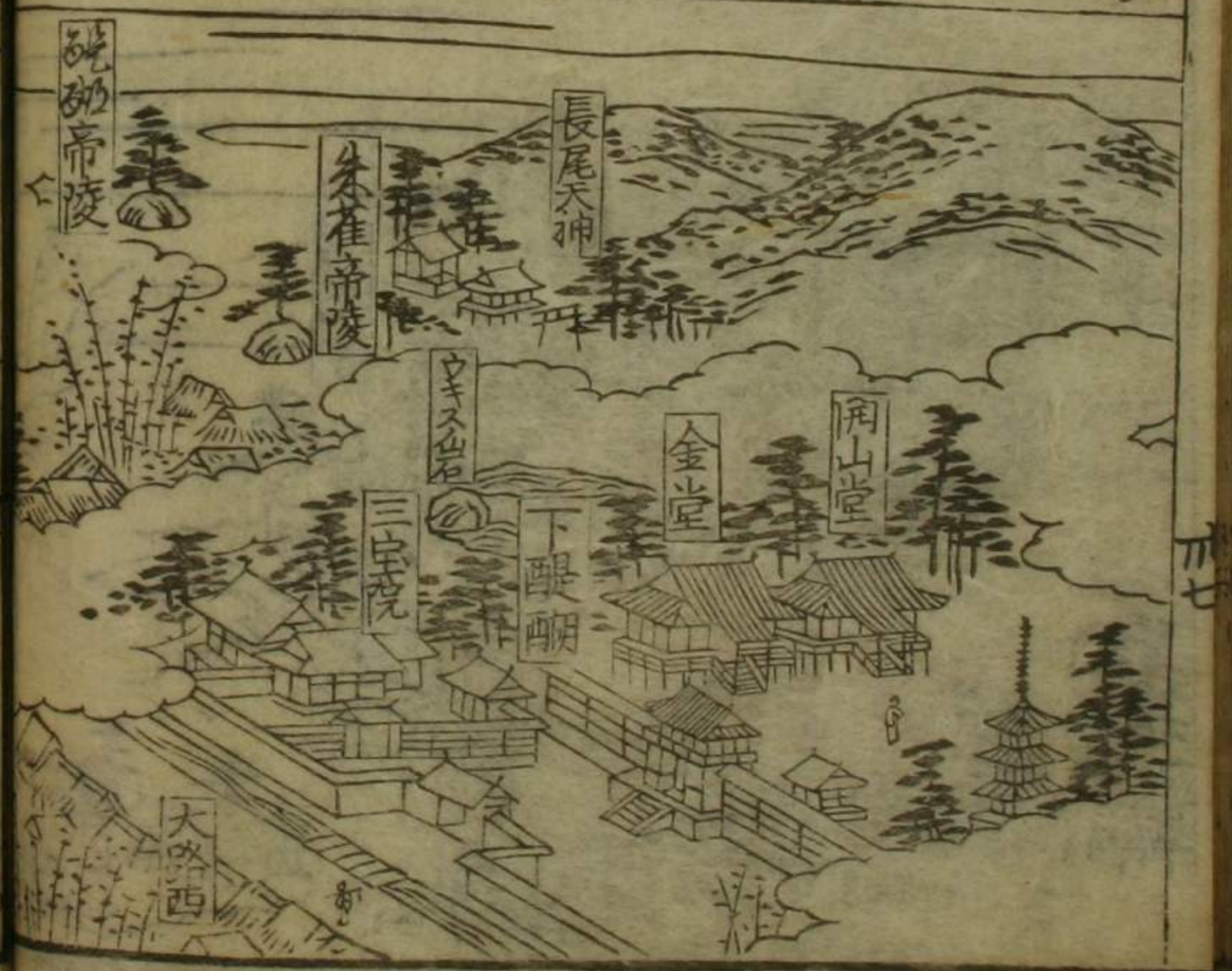


○清園寺 山号と申す  
 清園寺のありあり。多分  
 院の清園あり。此地ありと  
 いう名々の本あり。そを  
 一かへし。楓の葉つひ乃  
 本ふかえり。○おの中ふ。  
 清園寺はうらのふかえり  
 ○ある谷 清園寺の  
 ぶ科みなるあり。若葉  
 道とらふ小松谷といふ  
 古なる谷といふ所あり  
 わりとあるあり。○ぶ科  
 宇治郡方を東へお飯  
 ととさねふのありあり  
 清園村とあると六地  
 までの方一里餘の科七  
 郷十八村ふらうの科を  
 惣あり  
 是らと下田まで  
 科の心は事成ると





○花山 遍昭が住し元号  
 わるびきとまぶきの本後  
 ○勸修寺 親王清門跡の  
 清室あり。そとふ勸修寺の  
 茶屋あり。伏しつゝ大講う  
 ゆく大乃あり。ひき茶屋あり  
 あり。茶屋のひしひ大乃  
 の小ふ文路は蓋の小や  
 ろあり。宇治物ごうふさあり。  
 あり。宇治物八幡といふ

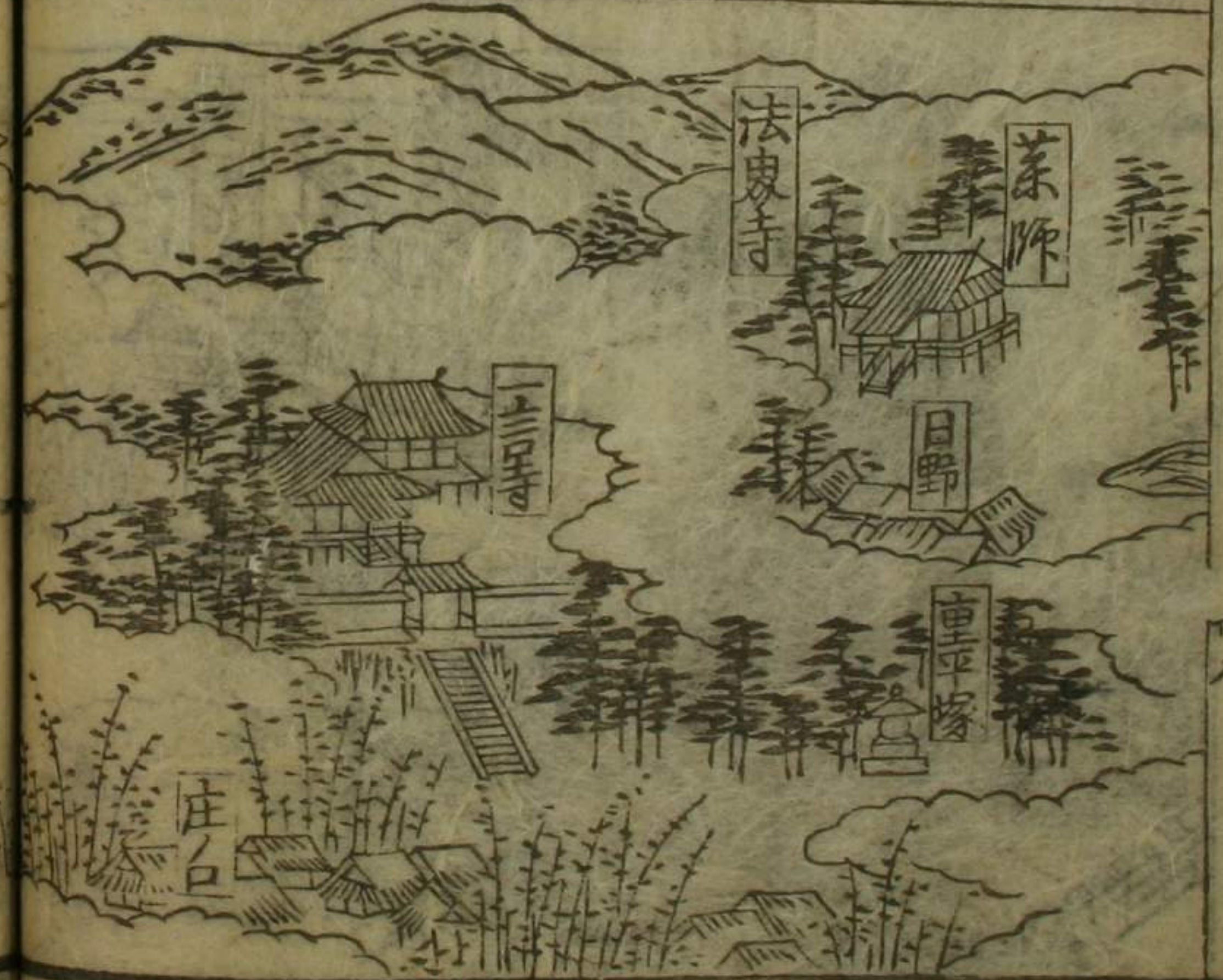


小社あり。是より系よゆ  
 にふはえ若瓜をり。福  
 若おわらしたるあり。○小栗  
 挿社 ○小野 随心院 所  
 跡あり。まゝあり。○小栗  
 田村丸の墓あり。○下砦  
 砦 林中に佛殿寺院あり。  
 砦 砦寺あり。里のふ松をり  
 の内ふ砦砦天皇の御陵あり。  
 里中 朱在





天皇の所<sup>とく</sup>後<sup>ご</sup>人<sup>にん</sup>家<sup>か</sup>のう<sup>う</sup>り  
 へのり。あま又<sup>また</sup>平<sup>ひら</sup>地<sup>ぢ</sup>か<sup>か</sup>る<sup>る</sup>。里  
 中に三<sup>さん</sup>交<sup>かう</sup>院<sup>いん</sup>后<sup>ご</sup>の宅<sup>たく</sup>あり。  
 是<sup>こゝ</sup>ま<sup>ま</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>伏<sup>ふし</sup>の長<sup>なが</sup>か<sup>か</sup>り。庭<sup>てい</sup>  
 う<sup>う</sup>。庭<sup>てい</sup>のう<sup>う</sup>た<sup>た</sup>を<sup>を</sup>の<sup>の</sup>思<sup>し</sup>  
 わり。秀<sup>ひで</sup>吉<sup>よし</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>い  
 が<sup>が</sup>安<sup>やす</sup>に<sup>に</sup>来<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ。ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
 尺<sup>しち</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>。あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>は<sup>は</sup>里<sup>り</sup>に  
 暮<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>掃<sup>そう</sup>花<sup>か</sup>多<sup>た</sup>し。是<sup>こゝ</sup>より<sup>より</sup>  
 の<sup>の</sup>碓<sup>すい</sup>礪<sup>り</sup>一<sup>いち</sup>里<sup>り</sup>あり。坂<sup>さか</sup>との<sup>の</sup>が  
 上<sup>かみ</sup>下<sup>した</sup>の<sup>の</sup>碓<sup>すい</sup>礪<sup>り</sup>寺<sup>じ</sup>ま<sup>ま</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>家<sup>か</sup>に  
 ○上<sup>かみ</sup>碓<sup>すい</sup>礪<sup>り</sup> 釜<sup>かま</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>名<sup>な</sup>  
 あり。あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>法<sup>ほふ</sup>施<sup>し</sup>権<sup>けん</sup>現<sup>げん</sup>の  
 社<sup>しゃ</sup>あり。は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>女<sup>に</sup>人<sup>にん</sup>と<sup>と</sup>梅<sup>うめ</sup>あり。  
 あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>小<sup>こ</sup>傍<sup>たが</sup>坊<sup>ぼく</sup>多<sup>た</sup>し。寄<sup>よ</sup>藤<sup>ふじ</sup>也<sup>なり</sup>。  
 あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>京<sup>きやう</sup>都<sup>と</sup>より<sup>より</sup>一<sup>いち</sup>日<sup>にち</sup>ふ  
 や<sup>や</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>健<sup>けん</sup>身<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>京<sup>きやう</sup>より<sup>より</sup>三<sup>さん</sup>里  
 守<sup>しゅ</sup>所<sup>じょ</sup>あり。東<sup>とう</sup>の<sup>の</sup>ふ<sup>ふ</sup>下<sup>した</sup>れ<sup>れ</sup>谷<sup>や</sup>中<sup>ちゆう</sup>  
 に<sup>に</sup>釜<sup>かま</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>あり。秋<sup>あき</sup>多<sup>た</sup>し。釜<sup>かま</sup>  
 取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>釜<sup>かま</sup>ふ<sup>ふ</sup>り<sup>り</sup>み<sup>み</sup>が<sup>が</sup>多<sup>た</sup>し。









○麓の表の社 伏見のい  
 一のありれあり○失考  
 家○佛國寺 唐僧高泉  
 深師の再興佛教寺  
 方名○六地務町わりの茶  
 屋おほく 宇治川よりちく  
 ちくちくのほくあり伏  
 見にも大はふもゆくの  
 ちまのちまの○本樓 名茶  
 ありやりのあり 天恩種耳  
 黄檗山 弟福寺  
 大和村ふわり 唐僧源元祿  
 師の同表 佛教英藤あり  
 三門あり内人の墓あり 奥の  
 院あり○遠方町 宇治より  
 ありありあり○大恩寺  
 町 遠方町のありあり本  
 懐より宇治よりありあり  
 ありありありありありあり  
 ありありありありありあり  
 ありありありありありあり













岸よりいりわやゆりあり。橋  
 のしごりたりふぬ釣目  
 とつらぬりつとあひらる  
 産し。びりしは橋にあり  
 て茶の島にりしとあり。秀  
 吉と豊後大友氏に豊後  
 橋にけさせ小倉に  
 とつらぬりしとあり。とつら  
 ぬりしとあり。とつらぬりし  
 とあり。とつらぬりしとあり。

治の里 民家あけく茶師  
 の家多くして。その富るる  
 家廣大なる。とつらぬりし  
 茶園多し。宇治川より東  
 小倉の方より治那あり。今  
 乃川の西宇治の里に久世  
 郡あり。○平等院 眞聖  
 寺あり。西川のびりしとあり  
 ○扇の茶草 頼政自害  
 せしあり。とつらぬりしとあり。

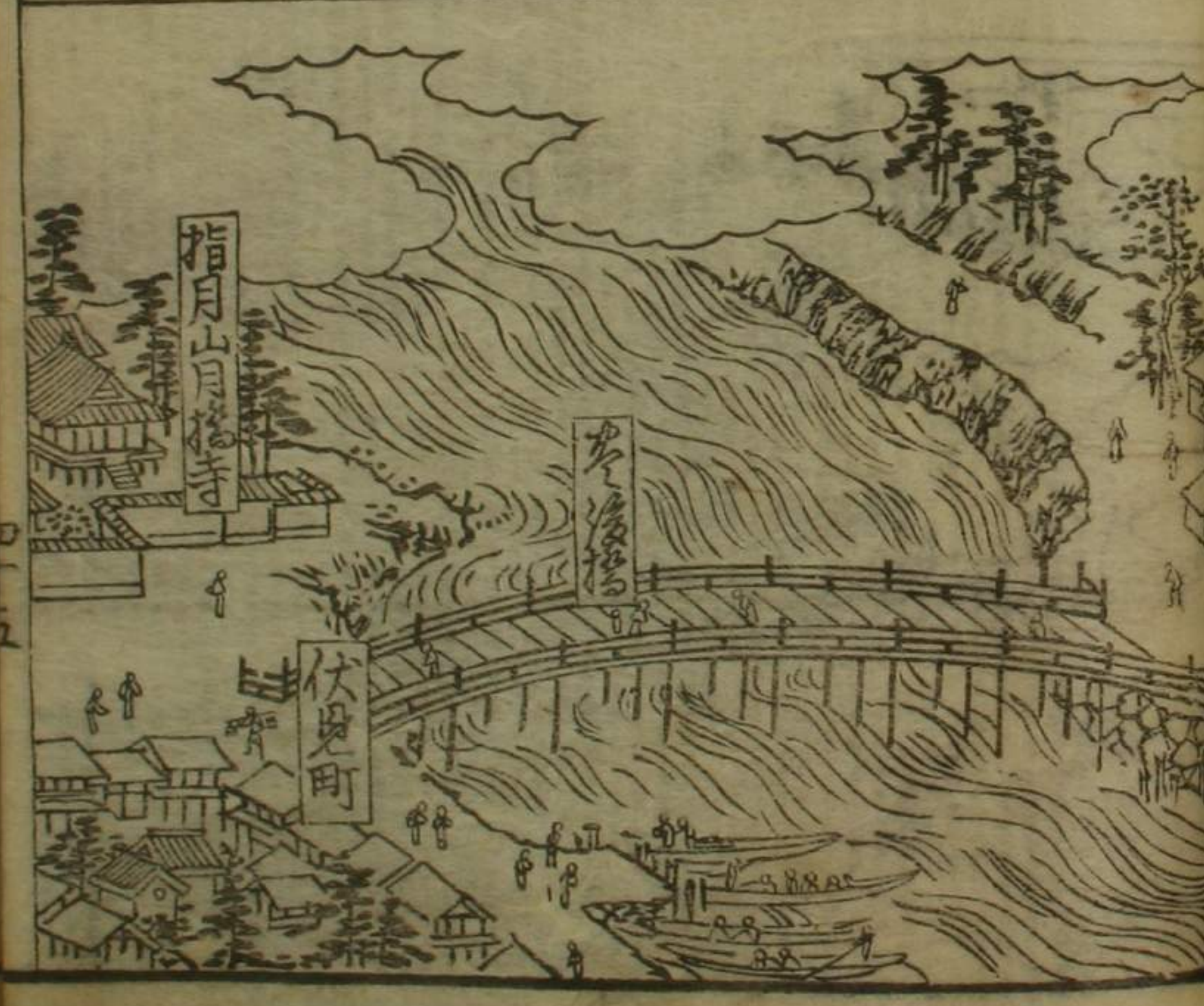




社 榜のきふあり。榜より五  
 へのまを後榜ゆーじんど  
 八幡にらる。舟のゆく事  
 ちあをまふし。あふるまを流  
 にゆらぐゆりにらるふ  
 のまふ

○まふいあふるまを流に流  
 八幡山 寿西の園ゆら  
 ぶんとあふるまにのま  
 流にゆきわらひらるふ

八幡山 寿西の園ゆら  
 八幡山 寿西の園ゆら  
 宿をふし。日輪をくくま  
 しみにのらる。ふらたの町  
 ゆらぐ宿し。日輪をくく  
 とらん。まを流るまを流る  
 光明寺。大原野。小塩山。  
 向日明神。かむらとま  
 へゆりて東寺にまふら  
 くらふら。かくのごうら





きば三日ふつら西成坂見  
きやとくこらあり

○槇の嶺 西ふ小倉堤

としてとと大境あり  
沿わう。甚多し。伏見の夜

るは。は境とるりく  
後橋ふらうも

▲八月六日 西南

大原野小塩にゆくを

あつと

○東寺 ごとく洛中に

あつせり。是より山壽ふ

三里○口ツ塚 東より

あふゆけむ小橋あり。その

色にあり塚あり。はら

あふありわらじ。○吉福院

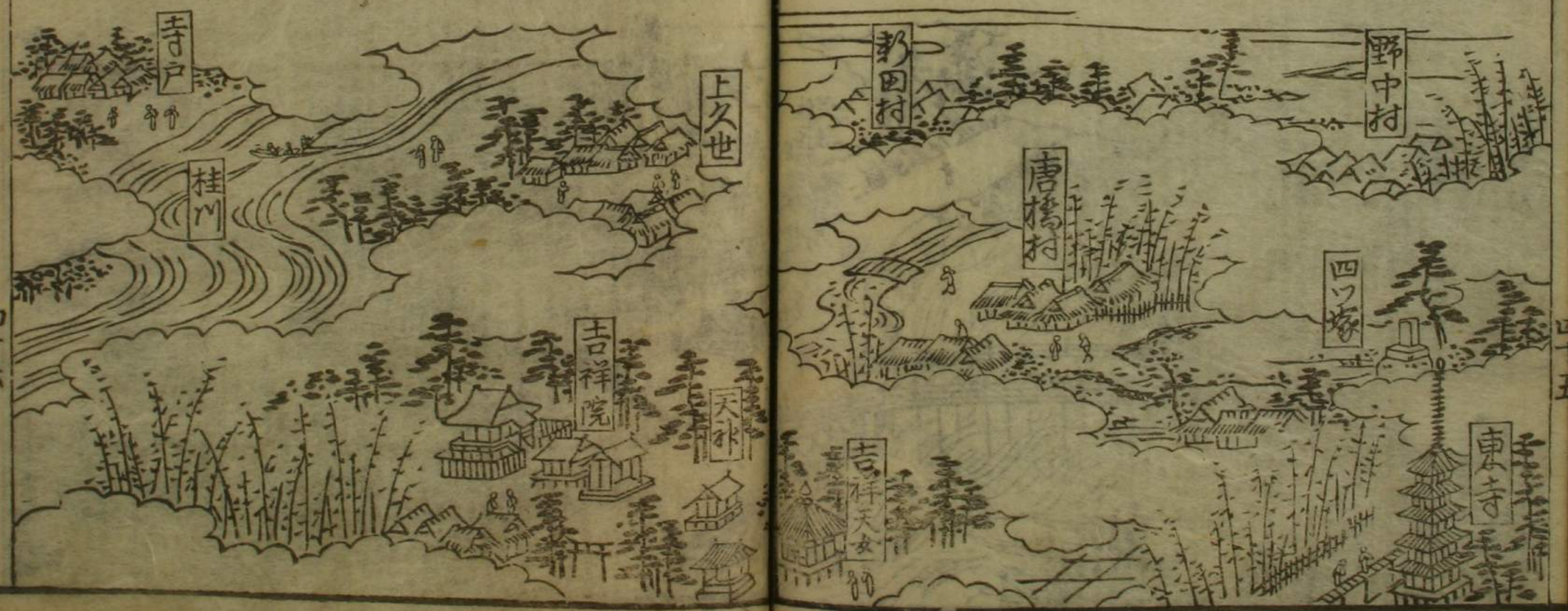
東寺の南ふあり。古菅家

の地なり。吉福天女社

并に菅神のやうあり

乃備ふありとるりけ

○東寺



田



にいきらちるをぞ

○唐檜○桂の里○桂川

峯を我の大井川の下なり。

丹波よりと知る。みわくし

あり○久世○向日明神

小野道風のくまの歌あり。

前ふ茶屋多し。中国も

あそぶふとあはれのみあり。

向日川をきりり川と云ふ。

かんと忠度郡落り時

け川よりと教くくくくくくく

なり。一夜ふ山崎と八幡の

別の淀川ときりり川と云。

長岡の系のおとけいあり

にたれたるあり。植民天白

の十の住をゆひくゆ也

○大原野 春日明神乃

社あり。いそに勝お寺と

けちあり。道風の書り歌

あり。紅葉の樹多し。西行





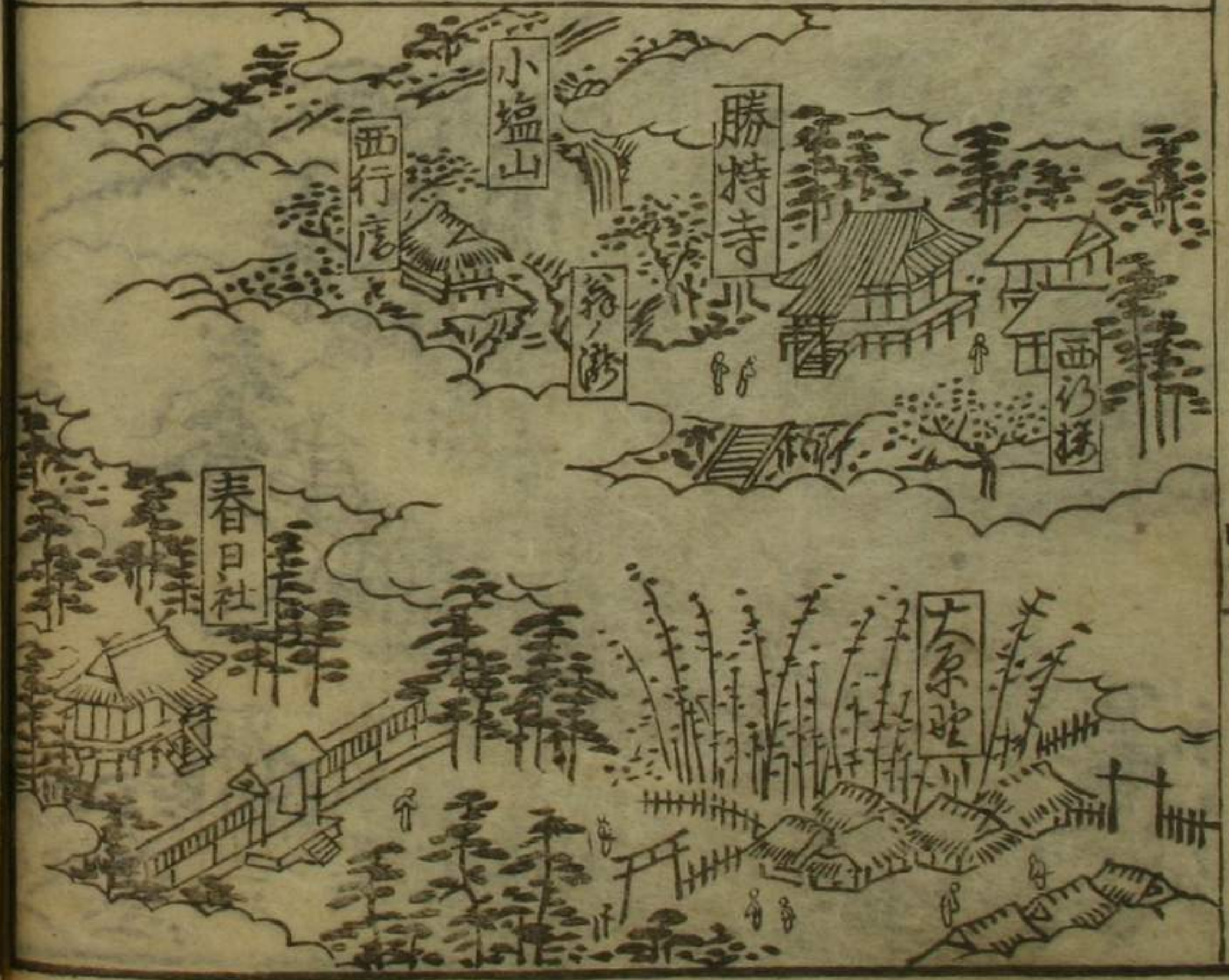
橋とつゝ木あり。花のちや  
つゝつあに池あり。佐の  
沼とつゝ名あり

○小塩山 大原野の上を  
山あり○善峯寺小塩  
山の上にあり。坂とのかり。橋  
あり。げ寺に目茶あり  
急なあり○西岩倉  
三銘寺の小にあり○三銘  
寺 若家ありよりよる

女人のまゝ事瓜林あり

▲第七日 西方

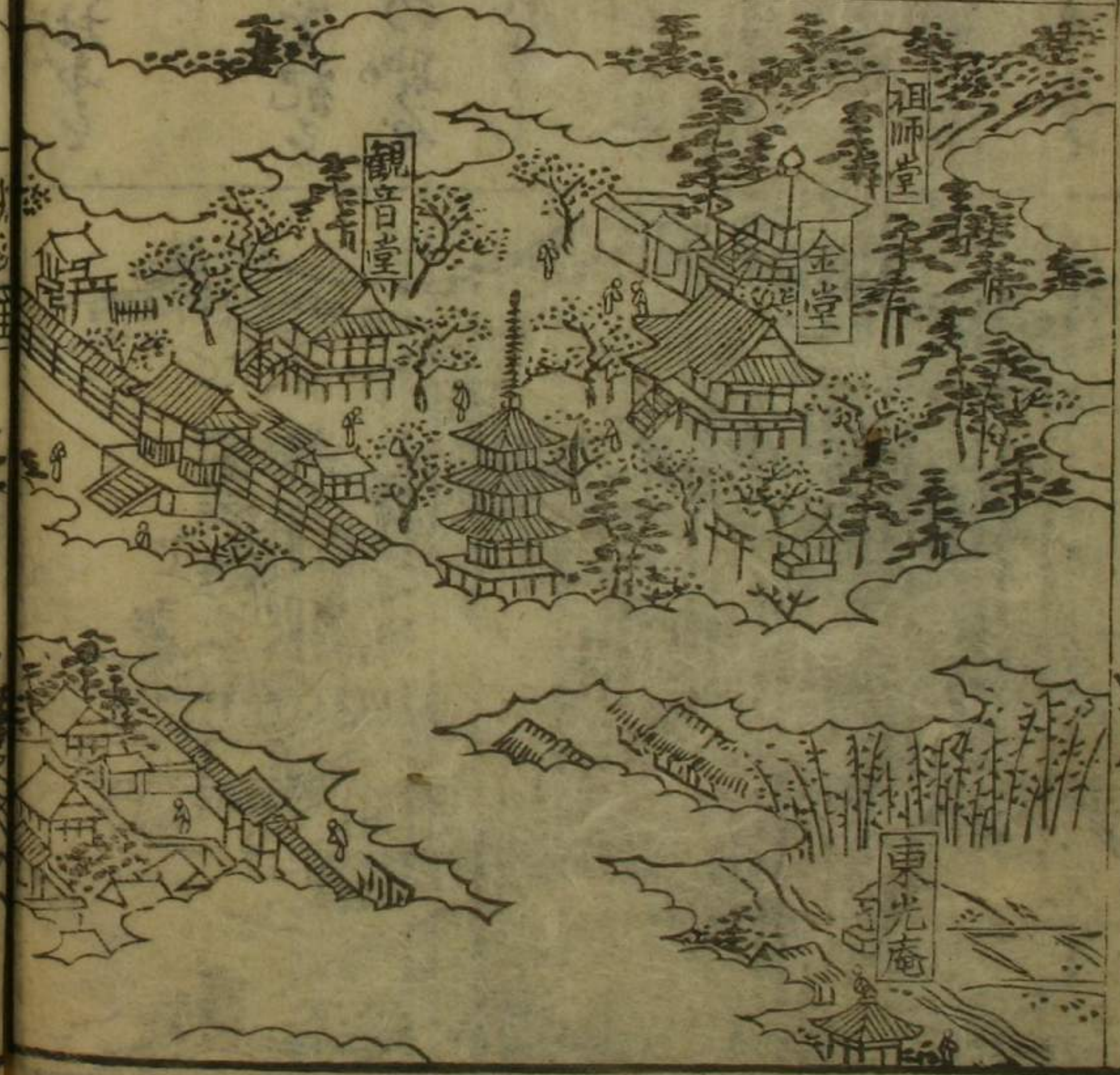
嵯峨にゆく道と記と  
○心野 一条の南の野也  
今ハ民家まゝあり  
○妙心寺 禅宗ス山の外  
大徳寺妙心寺と大も  
京都下立賣通と西  
ゆき妙心寺の南門乃  
前より。南のつり入





小つふお西へ三町程  
 ゆけお仁和寺にゆる。  
 又南ののち西へ  
 ても浄室にゆくあり  
 ○仁和寺 一室室  
 所より一里程あり。内  
 室より親王御門  
 跡あり。浄教の寺と  
 ともくつらん。ま  
 ちけ西院の奥ふ

八重ざくらをまじり  
 中法外ふてまじり  
 右のよみおと  
 倉一毎年花のぞ  
 のつと十竹日の名も  
 こつらん多くあつ日  
 と那集せり酒會を  
 たぐらん幕布はく  
 花宮あひかたを者多  
 一室のありけい





りせん人々花の始中終云  
なゆはくくくるべし。本多  
きゆんさうくえい

**巖我** 以下嵯峨の事と

ちろと

○大澤の池 中流あり

菊寄とくふ ○名社の跡  
の跡 公任の名をせか  
てとよめる跡なり。大沢の  
池のふみあり。ちろと人希

かり今ふ跡をみる。ちろと

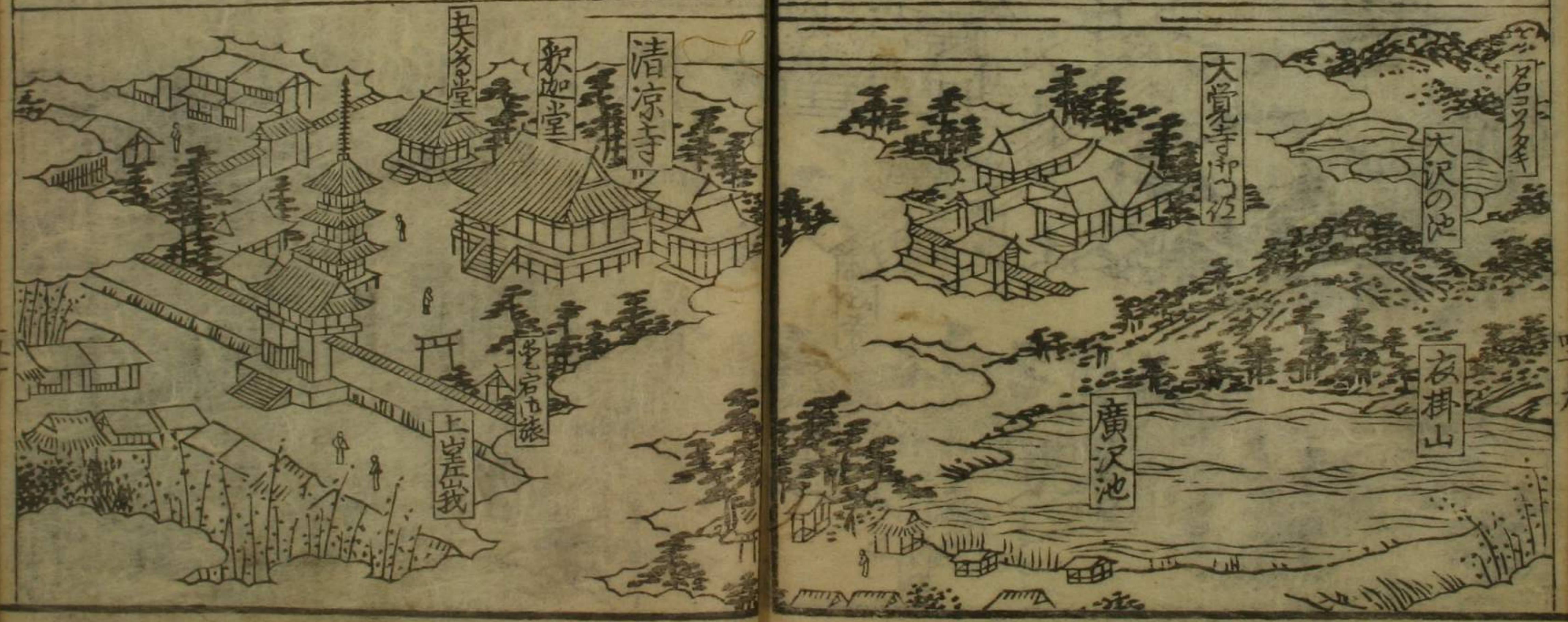
んぐー ○釈迦堂

清涼寺といふ本尊の毘  
首羯摩が作の釈迦堂  
西小大なる堂あり。古佛

かり。ふの林のうちにこの  
釋迦と唐よりとるまあり

傍有然が墓あり

○放生院 平清盛の時  
岐王は女などこゆり





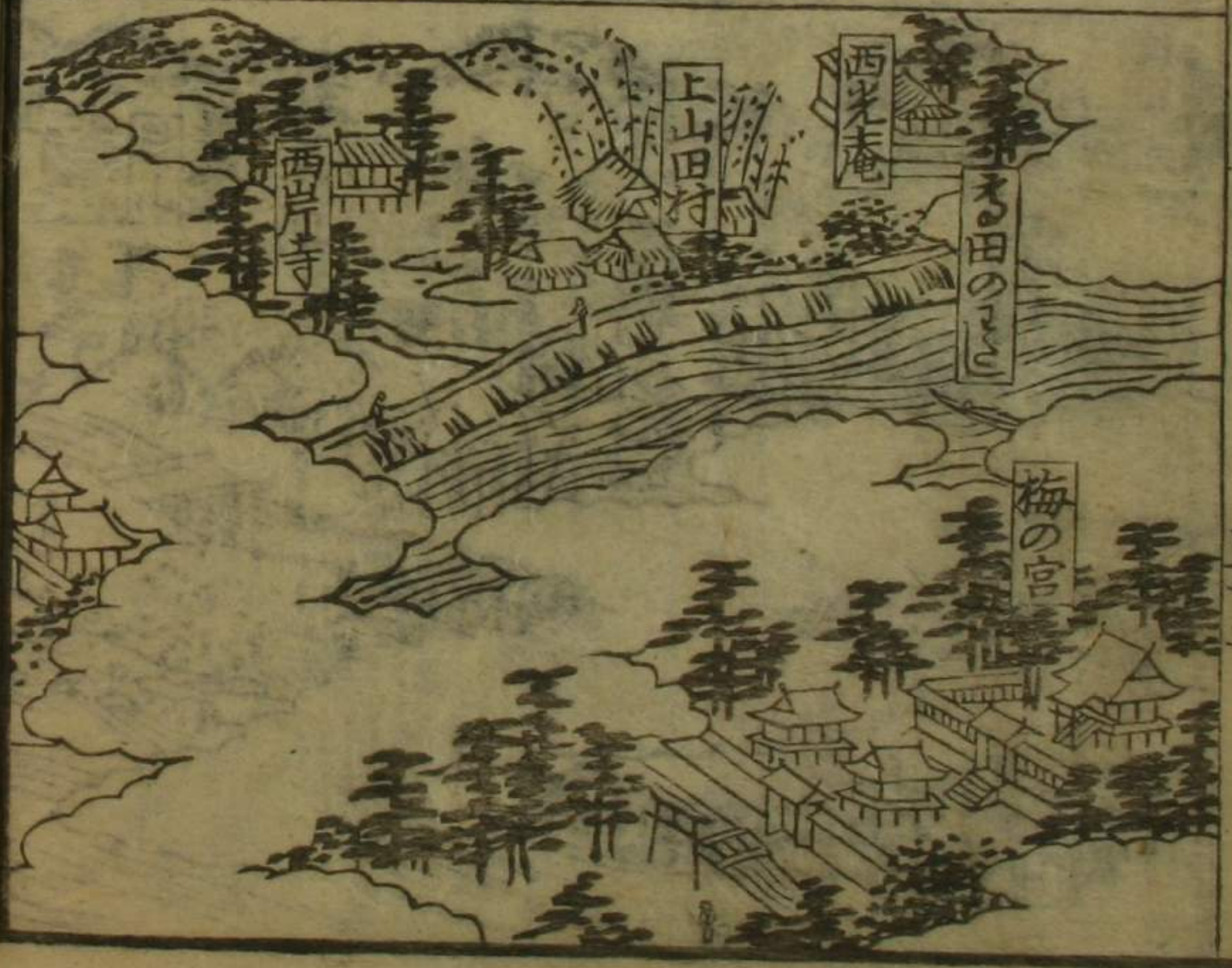








るうね坂のり 虚空の堂  
 かのとふくし。をひ三月十  
 三日十三日にある初め男女  
 とあつとる事おびとし。是  
 と十三すのりとのり ○標谷  
 は福ちの小川をさほわり。祇  
 社のり宗縁の律りわり松  
 尾の杉社より系し。その  
 東小も小督う居るり。い  
 くのりわり ○大悲園 標谷



よる八所をりり河とふる。  
 観音堂のり角舎る意  
 本像わり。林道甚のりけり  
 石碑あり ○松尾 法福寺  
 一のり河もふある。め祇  
 のやしりあり。そより系  
 一のり大井河とあつとる  
 つと梅津ふゆべー ○梅津  
 長福寺といふあり  
 ○梅宮 梅氏の組祇あり





二十二社の内なり

○是よりと改つてみらにを  
奏とんるべし。又東都の  
宿の在ふより。二条を  
よりと改つて我小田けいけい  
すさるり恵乃なるを。左  
奏二条をのゐるあり。右  
奏は西人物なるをいさ  
ひよりと改つて。是よりた  
のまれば人けい陳川なる



藤ふゆくゆふけい。上層  
激清浄寺のありゆ

○下立賣よりと改つて我に  
ゆくに。西の系紙をりて  
本道とて妙ゆきのありつか  
とをり。池よりと改つて  
ををり。常盤ふゆくま  
よりと下層激へもよと改つ  
もゆくあり。○右系より  
廣隆寺あり。其言ふあり。





又蜂岡寺ともいふ。本寺  
 の茶師なり。平安城乃  
 中にて立ざるまゝなり。其  
 洛中洛外寂秘のさ也  
 ○本の寫明神 元弘  
 とのくを美あうりを所  
 なるりと東乃のふはあり。  
 天照右神の所社なり。林  
 の内なり。清泉を中に三  
 面の名居たりあり





喜多藏